

# 天草市立図書館スタッフによるオススメ本紹介 ♪ぜんぶ図書館で読めるよ♪2018 春



『よしおくんがぎゅうにゅうをこぼしてしまったおはなし』  
及川 賢治/作・絵 (岩崎書店 2007年出版)

このタイトル分かりやすいですね。  
誰もが一度はやったことのある牛乳をこぼしてしまうおはなしですが・・・その牛乳がとんでもないことに。  
ページをひらくたびにありえないことだらけ。  
感動する絵本、考えさせられる絵本はたくさんありますが私はこの奇想天外でつつこみどころ満載の絵本に釘付けになりました。  
小学校の読み聞かせにも盛り上がりました。  
なので何度も読んでいます。  
私のおすすめ絵本です。

『地球はえらい』  
城 雄二/案 香原 知志/文 松岡 達英/絵  
(福音館書店 1996年出版)

ここ近年、世界各国で様々な災害が発生し大きな損害、悲劇が繰り返し発生している。  
要因の一つとしては人間の欲から自然をいじりすぎて天罰が下り、お灸をすえられているのではないだろうか、と考えさせられる。地球は人間がいなくても困らないだろうが人間は地球が無いと一大事である。  
この事に感謝し食料、物を大事にするごく当たり前の事を再度認識し無駄のない生活を今後に生かせたら地球の環境も改善し元気になるのではと考えます。



『りんごかもしれない』  
ヨシタケ シンスケ (ブロンズ新社 2013年出版)

男の子が帰ってきたらテーブルの上にりんごが置いてあった。  
・・・でも、もしかしたらりんごじゃないかもしれない。  
他のものかもしれない。  
心があるかもしれない。  
りんごを「ただのりんご」ときめつけしないで、「・・・かもしれない」と想像を巡らすところに関心しました。考えることを果てしなく楽しめます。想像力が膨らむ楽しい絵本です。  
次はどんな「・・・かもしれない」があるんだろう。

## 『子どもころの育て方』

稲盛和夫／監修（西東社 2018年出版）

京セラ会長・稲盛和夫氏の教えは、一貫して、「仕事に対しての取り組み、目標は大きく、失敗を恐れずやり続ける。人に対して『利他の心』、常にありがたいの気持ちを忘れない。

この本には、子どものころの育て方が、分かりやすく説明されています。

大人にも、参考になるおすすめの本です。



## 『王様に恋した魔女』

柏葉幸子／作 佐竹美保／絵（講談社 2016年出版）

戦乱の世を生き抜く魔女、そして魔女を取り巻く人々のオムニバス短編集。

タイトルと表紙に惹かれて手にとってみたものの、ファンタジーや恋愛もののカテゴリ枠にはまらない作品です。

「私たちとは違うものを持つ人がいる」、「周りの人とは違うものを持つ私」

魔法ではなくても、現実にそう感じながら生きる時、自分はどうかろうか？どうありたいか？

読了後に面白かったと思う本はたくさんあっても、出会えて良かったと思える数少ない一冊でした。

## 『星につたえて』

安東みきえ／文 吉田尚令／絵（アリス館 2017年出版）

まだ生きものといえば、海のクラゲしかいなかった、はるか昔のこと。

いっぴきのクラゲが、夜の海にうかんでいたら、空の上から声がしました。

声の主は、何万年もひとりぼっちで旅をしていた、星でした。

ふたりは夜通し、おしゃべりをして、仲良くなりましたが、朝がきてしまい…。

おはなしの中で、クラゲは、星と交わした約束に、大事な「ことば」を添えて、また会える日を待ちます。その、「ことば」は、誰もが大切な人に伝えたい「ことば」。

読み終わると、やさしい気持ちになれる絵本です。





『おかあさんだいすきだよ』

みやにしたつや／作・絵 （金の星社 2014年出版）

子どもはお母さんが大好きです！たとえ怒っても大好きだけど、優しく言ってくれれば、もっと大好き！  
お母さんが言いがちな言葉に対して、子どもは「こんなふうに言ってくれたらいいな」ということが描かれています。  
(お母さんも分かってはいるのですけどね・・・)

5月13日(日曜日)は、母の日。

「おかあさんだいすきだよ」

「おかあさんもだいすきだよ」

ご家族で「だいすき」を伝えあってみてはいかがでしょう( ^ . ^ )ノ

『はなちゃんのみそ汁』

安武信吾・安武千恵・安武はな／原作  
魚戸おさむ／文・絵 （講談社 2015年出版）

実話をもとにえほんになった『はなちゃんのみそ汁』生きること、食の大切さ、家族の絆を家族に伝えたいとき、良い機械になると思います。

口に出さず、手をかかず見守ることは難しい。出来ないことが出来るようになることで自信になり自立につながるのだと思いました。

子どもが色々な事に挑戦できるよう、見守ることの大切さに気づかされました。

大人も子どももたくさん、得るものがあると思います。ぜひ、手に取ってみてください。



『ぼくのニセモノをつくるには』

ヨシタ ケシンスケ （プロンズ新社 2014年出版）

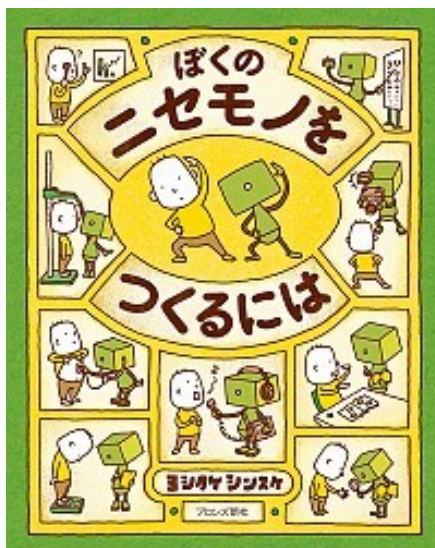
ぼくのニセモノを作って面倒なことは全部そいつにやらせよう！  
じぶんのおこづかいでロボットを買ってぼくの変わりになってもらえるよう、ぼくを説明する。でもぼくがぼくを説明するのはなかなか難しい！

説明していくうちに大事なことに気付かされる一冊。

作者のユーモアとセンス、想像力がとても素晴らしい絵本だなと感じました(^.^)最後のオチがヨシタケシンスケさんらしくてこれまた面白い♪

この本を読んで自分のことを考えてみたらなにか新発見があるかも？

他にもヨシタケシンスケさんの書くシリーズは切り口がとても面白く大人でも楽しめる本ばかりなのでぜひ読んでみてください(\*^^)





『ものしりなぜなに？ どうして？ へえ、そうなんだあ！』  
本間正夫／著（主婦の友社2009年出版）

子どもは見るもの聞くものすべてに「どうして？」「なんで？」と疑問を持ちます。  
この本はそんなたくさんの「なぜ？ どうして？」に。イラストを交えてわかりやすく答えています。お父さん、お母さんも一緒に楽しめるおすすめの一冊です。

『西郷どん！ まるごと絵本』  
東川隆太郎・さめしまことえ／著（燦燦舎 2017年出版）

西郷さん すごく真っ直ぐで熱い人ですね。(勝手なイメージ)大河ドラマで大人気「西郷どん」！私も大好きで毎週見えています。

この本では、鹿児島の子が明治時代にタイムスリップしました。そこで西郷さんに出会ってやさしい西郷さん、意外な西郷さんを感じることができます。

絵本と解説の二部構成になっており、日本の歴史のお勉強もちゃんとできます。子どもから大人まで家族で本を読んで、テレビを見ると盛り上がること間違いなし！

図書館でいろんなタイプの西郷さんの本を探して読んでみるのも楽しいと思います。



『わたしはヴァネッサと歩く  
クラスのいじめを止めさせたたった一つの行動』  
ケラスコエット／作・絵（岩崎書店 2018年出版）

文のない絵本です。転校生のヴァネッサ。誰も相手にしてくれません。いじめの子もいます。わたしはずっとときにかかっていた。

ある日、わたしは思いきってヴァネッサの家に誘いに行きます。そして、一緒に登校します。それからクラスの雰囲気が変わっていきます。

文がないと絵をていねいに見るものですね。  
いろいろな年齢で、それなりの読み方ができる私のお気に入りの一冊です。

『おれ、カエルやめるや』  
デヴ・ペティ／文 マイク・ボルト／絵 こぼやしけんたろう／訳  
(マイクロマガジン社 2017年出版)

もっと、可愛くてフサフサの動物になりたいカエル。アメリカで大人気のこの絵本、翻訳された方のプロフィールが“人を楽しませる仕事”というだけあって、カエルのセリフが生意気なだけけれど、とってもキュートでなぜか全然憎めない、クスッと笑顔になれるユーモアあふれる絵本です。





### 『くるみのなかには』

たかおゆうこ（講談社 2017年出版）

「くるみのなかにはなにがある？」

その問いかけではじまる くるみの中のせかい

くるみの中には くるみの中に入る ちいさなちいさな 素敵なもの

ちいさな かえるの たからもの

ちいさな おじいさんとおばあさんが ろうそくを灯してゆったりとくらす 部屋 時をしらせる鐘が鳴る ちいさな町…  
しずかにしずかに 物語はすすんでいきます。

ところが…

つちに うめられた くるみ は…

みずをすって 芽をだし

おおきくおおきく そだち やがて…

あたらしい くるみ の誕生!!!

しずかなくるみの中には、こんなにも鮮やかな命が詰まっているんだ！くるみの中の静かな空想の世界と相まって、はじける命がいきいきと伝わってくる絵本です。

こども、おとも楽しめる絵本をどうぞ。

### 『いちにちおもちゃ』

ふくべあきひろ／作 かわしまななえ／絵  
(PHP研究所 2009年出版)

かっこいいから、おもしろそうだから、かっこそうだから『のりもの』や『おもちゃ』、『ぶんぼうぐ』になってしまういちにち○○シリーズ。

軽い気持ちで「なって」しまうからページをめくるたびにひどい目にあってしまいます。

とにかく絵のインパクトがすごいです。

個人的なオススメは『カスタネット』親子で楽しめる絵本です。

